

遠隔教育の考察

——中国とアメリカの遠隔教育を中心に——

胡 逢 蘭

はじめに

われわれは、現在、知識化・情報化・学習化社会へむかって進んでいる。知識は社会的に重要な生産要素となっている。生涯教育はすでに各国の政府および教育界が求める目標になっている。生涯学習も人々がともに追求することとなっている。このような社会の流れは遠隔教育の発展に無限のチャンスをもたらし、発展が早く展開する教育領域になってきた。しかし、各国の制度と伝統・社会と文化、技術レベルの差により、各国の遠隔教育の認識に大きな差異が存在している。この報告は、中国・アメリカを対象にし、遠隔教育の概念、管理制度、専攻とコースの設置、資格の認可と社会の評価について違いを考察し、遠隔教育を健全に発展させる要因を明らかにすることを目標としている。

I 遠隔教育の概念

簡単にいえば、遠隔教育は学生と教師、学生と教育機関、学生と学生の間に多様な情報通信技術により教学と交流を行う教育方式である。しかし、各国、あるいは同じ国でさえ様々な場合にそれぞれの人により遠隔教育に関する理解に大きな差異がある。

1 中国における遠隔教育の理解

広義に理解すれば、次のようなことである。つまり、遠隔教育は正規あるいは非正規な非対面的な教育、養成ということとなる。英国政府が提出した、いわゆる「開放教育」と類似するものである。正規的な遠隔教育というのは、教育管理機関から、学歴教育¹⁾の権限をもらって、遠隔教育を実施することである。たとえば、広播テレビ大学の学歴教育、伝統大学に属す遠隔教育学院の学歴教育はそれに該当するものである。非正規的な遠隔教育というのは労働者、農民を対

象とする技能養成コース、MBA 課程などである。

狭義に理解すれば遠隔教育は非対面の方式で情報通信技術により行われる教育である。中国教育部（日本の文部科学省にあたるもの）から認定を受けた遠隔教育学院と中央広播テレビ大学および地方広播テレビ大学が行った学歴教育はこの理解に当たるものである。伝統的な通信教育、広播テレビ教育、成人教育と区別するため、現代情報通信技術による開放的、規範的な学歴教育を現代遠隔教育と名づける。

遠隔教育を実施する大学に学歴教育の割合が高いのは、社会の発展が大量な人材を求めるからである。そして、遠隔教育は教育の大衆化、つまり、多くの人に教育を受けさせる一つ方法だからだと思われる。

2 アメリカにおける遠隔教育の理解

アメリカには、全国的な教育管理機関がなく、各州に各自の教育管理機関が学校ごとに、非常に柔軟性のある教育制度をもうけている。遠隔教育は、現代通信技術により、学生にコースを提供する教育である。そのため、ある州あるいは地域に遠隔教育組織が設立されている。例えば、アメリカ西部教育遠隔通信協同組織(WCET)がある。大学は、基本的に専門的な遠隔教育学院を持たない。もちろん、大学内に実施する遠隔教育のコースを監督と管理する部門がある。

アメリカでは、1996年にインターネットを中心する現代遠隔教育が始まった。カリフォルニア、テキサスなど11の州が共同にバーチャル大学を創立したことでインターネットを中心とする遠隔教育の幕が開けられた。学習者がネットにより学習し、試験に合格すれば80の大学から学位がもらえる。専攻は、主な各学科のものが含まれている。例えば、全米工科大学が化学、橋梁、経営など16コースを開設し、ウィスコンシン大学も経営、文学、教育学、図書館学と社会学の5専攻・17コースを開設した^①。そのため、アメリカでは、遠隔教育は、実体は、現代通信技術により、コース提供を中心とする教育である。それに従って、ネ

ット学院, ネット教育, ネット教室などの名称が現われ, 広がっている。

上述のどんな大学にしても, 教育の対象はほとんど成人学習者である。遠隔教育は有職成人のための教育社会の拡大を図ることを目的とする教育だと思われる。

II 遠隔教育の制度

1 中国の遠隔教育実施認定と学歴の認証

中国では, 大学が遠隔教育を実施する条件を満たしているかどうかについて教育部は厳格な検査システムを設けている。つまり, 遠隔教育を行なおうとするなら, すべての大学には必ず教育部の審査と指示を受け許可を取得しなければならない。そして, 許可をもらって設立した遠隔教育学院は, 教育部の現代遠隔教育処の管理を受けなければならない。1999年に教育部の許可を得て中央広播電視大学と67の伝統大学が遠隔教育を実施することになった。遠隔教育の質を確保するため, 定期的な監査を行って, 条件に満たさない大学を除名し, 新たに入れかえる制度を実施した。この制度により, 2005年に教育部は評価の結果に基づいて, 新たに遠隔教育を実施する大学を発表したこれらの大学は, 精華大学, 北京大学, 吉林大学, 西安交通大学, 中央広播電視大学など64の大学となった。それ以外の大学は, 学生募集することができない。

また, 遠隔教育を実施する大学の募集計画も統一的に管理されている。毎年の募集計画および募集のパンフレットを教育部に通知し, 教育部で書類が保存され, かつ大学の関連教育データベースにデータを入力される。

さらに, 受験の資格について厳しいシステムがもうけられている遠隔教育学院では, 学生は必ず高卒以上の学歴を持ち, 全国的に行われる社会人向けの大学入試に参加すること, あるいは全国的統一大学入試の成績平均より低く規定された成績に合格しなければならない。数少ない大学は自分で入試を行い, 学生を採用することができる。ただし, 募集の定員は教育部に規定される定員数を上回ることができない。

遠隔教育に関する学歴と学位の授与についても非常に厳しい管理が実施されている。学歴・学位は教育部により統一的に印刷し, 配布する。この学歴・学位が国により認定される。その認定された学歴を持った上で次の段階を受験する資格が与えられる。

このような厳しい遠隔教育実施認定と特別許可シス

テムが論争を引き起した。なぜなら, 実は, 遠隔教育を実施する大学で, 中央広播電視大学以外で多数を占めたのは国内で有名な大学である。それは明らかな差別待遇であると思われる。そこで, 一般大学, 特に私立大学からこのシステムに対する激しい反対が表明された。

2 アメリカの遠隔教育実施認定と学歴の認証

アメリカは一番早くバーチャル大学という概念を提出した。

一般的には, インターネットを通じて遠隔教育する機関をバーチャル大学あるいは online 大学という。バーチャル大学というのはバーチャルの観念に支持され, ネット上での教育資源を有効的に利用し, かつ伝統大学の特徴と機能を持つ一種の大学である。online 大学は, すべてのコースと教育方案をインターネット上あるいは web サイト上で提供する。例えば, フェニックス大学の online キャンパスはこのような大学である。バーチャル大学は, 自分のコースを提供することだけでなくほかの機関が提供するコースを総合的に利用することもできる。すべてもしくは主に情報通信技術により学習内容と学習支援サービスを提供し, 教員に教学と研究に必要な資源も提供する。

バーチャル大学は, 市場の人材養成と研修のニーズを満たし, 教育の市場を拡大するため, ある期間中に結成する大学教育連盟という組織形態である。一定の選択方法でお互いにパートナーを見つけ, 提携した大学は, 高等教育の領域, 特に, 遠隔高等教育の領域で, 独特な優位性をもつことになる。そのため, 内部と外部の資源を整合し, 効率をよくすることができる。それゆえ, 有効な低コストの競争力と柔軟性を用いて, ひとつの教育機関で実現できない教育機能を果たすこともできる。いわゆる, 専攻の調整や学習支援サービスの開発と実践や遠隔教育実施システムの運営とコントロールなど, 学歴教育のすべてのプロセスが行なえる教育機関である。

バーチャル大学は, 受験資格に関する厳しい要求がされていない, またきまりの受験制度も設けられていないため, 柔軟性を持つ開放的な教育を実施することができる。一方, 悪質な宣伝に騙されないよう, 消費者に呼びかけている。そして政府にこのような教育機関に規制を加えるように要請する。さらに, 一般的には近隣の州を連合して, 地域性を持つ認定協会を設立する。各協会は独自に運営を行い, 会員である大学に管理をさせる。各協会が責任を持ってコースに関する

評価基準を創る。その基準により、10年毎に検査をする。1996年、西部協会は学位および証書に関する評価基準を開発し、電子ファイルの形で各州に提供し、それが使用されている。各協会の基準の主旨は遠隔学習者に責任を持つのが最も重要なことである。

以上のことから、アメリカの遠隔教育の理念は教育資源の整合を強調することがわかった。これは中国の遠隔教育学院と違う。そして、多くの遠隔教育は、インターネットを十分利用して、コースを提供する。それは開放的、個性的、個別的な教育方法の主旨にふさわしいと思われる。

Ⅲ 遠隔教育のカリキュラム

1 中国の遠隔教育カリキュラムの設置

遠隔教育を実施する各大学は、専攻を設置するときには教育部に申請を出す。そして、教育部の審査と指示を受けたうえで専攻の設置が成り立つのである。2002年まで、中国では遠隔教育は工学、理学、医学、文学、経済学、教育学、法学など10の学科の140の専攻を設けられていた。以下に遠隔教育資格を持つ吉林大学での専攻を例としてあげる。

コンピュータ科学と技術専攻：

コンピュータ科学と技術専攻（高起本）²⁾

コンピュータ科学と技術専攻（専起本）³⁾

会計学専攻：会計学専攻（専起本）

看護学専攻：看護学専攻（専起本）

金融学専攻：金融学専攻（専起本）

ビジネス英語専攻：ビジネス英語専攻（高起本）

ビジネス英語専攻（専起本）

法学専攻：法学専攻（高起本）

法学専攻（専起本）

旅行マネジメント：旅行マネジメント（高起本）

旅行マネジメント（専起本）

(<http://dec.jlu.edu.cn/baozi/work/firstpage/searchMajor.jsp> 2006.4)

設置された専攻から見れば、社会・経済発展と密着する専攻が多い。これら専攻に関する教育資源をどのように整合すれば、有効的に利用されるのかが課題となる。

2 アメリカの遠隔教育カリキュラムの設置

アメリカでは60%の大学は全国に各方式の遠隔教育を提供している。その教育を受ける学生は在籍学生の32%を占める⁴⁾。また、6000の学歴・学位コース

を開設し、ほとんどの学科と専攻が含まれている⁵⁾。さらに2003年にマサチューセッツ工科大学は500コースのすべての内容を全世界に公表した。そのため、アメリカは最大の遠隔教育を展開する国であると思われる。

提供されていたコースの中で、最も人気あるコースは以下の三種類である。

経営類コース：ビジネス会計、マーケティングなど

コンピュータ類コース：コンピュータ言語、データベースなど

法学類コース：犯罪学、経済法、刑法など

ほとんどの専攻を含むがやはり、社会の需要と学習者自分自身の需要が強い方向に傾くため、各専攻の割合が違うということになると考えられる。

Ⅳ 学歴・学位の認証と社会の認知

1 中国の遠隔教育の学歴・学位の認証と社会の認知

1999年に伝統大学と中央電視大学が遠隔教育を開始した。遠隔教育が実施できる大学の認証は、比較的厳しい。まず競争力のある有名な大学でなければならない。また、教育部の厳格な審査を通して、遠隔教育を実施する権限をもらう。このような手続きをしてない大学が遠隔教育をするのは禁止される。さらに、教育部が学位記（卒業証書）を全国的に統一印刷する。その学歴・学位が国に認知され、社会に承認されるようになっていく。

しかし、認められた学歴・学位が直ちに社会で認証されるわけではない。2003年北京教育委員会が実施した調査の結果から見れば、有名大学の遠隔教育の学歴でも、10%の企業しか認証しない。企業のほとんどは大学卒業の実力があるかどうか疑念を抱いていた。特に、90年代末期に大学の募集定員数を大幅に拡大し続けたため、大卒の学生数もにわかに増えてきた。そのため、学生は仕事を探すのが困難になり、遠隔教育の学歴の値打ちを切り下げる事態に直面することになった。そして、遠隔教育の学歴を持つ学生の競争力が弱められ、不利な立場になっていた。それは人々が学歴を重視し、特に有名大学の学歴をほしがると同時に、伝統的な文化に深くかかわりがある。そして、遠隔教育の認知も低いと思われる。このような文化・認知が変わらない限り、労働市場にできた状況を短期間に改善することができず、遠隔教育の健全な発展に悪影響となってしまふ恐れがあると考えられる。

2 アメリカの遠隔教育の学歴・学位の認証と社会の認知

アメリカでは、教育機関は、必ず認証手続きを通してから遠隔教育が実施できるということではない。しかし、学生にとっては、認証された教育機関の学歴・学位あるいは証書のほうがもっと価値がある。なぜならば、アメリカ政府は認証された大学の学生に奨学金を貸与する。そしてその大学の学歴・証書だけが次の段階の学習に入る資格となる。

実際に、アメリカでは、コースを提供する教育機関と具体的なコース内容に対して、認証する。この二つ認証を合格すれば、学生が取得した単位と学歴は法律上で効き目があるので、社会の認知にはたいした問題がないようである。それは、アメリカは法律に従って発展する社会である、そして、学歴に対する伝統的文化と社会的偏見がすくないためであるからと考えられる。

終 わ り に

以上の比較と分析により、次のようなことが考察できる。

1 遠隔教育は50年以上の歴史を経て、発展してきた。各国の遠隔教育についての認識をそれほど大きな差異がないといえよう。遠隔教育は、一種の教育技術である。また、多くの人が教育を受け、生涯を通して学習できることを実現するために欠かせない手段である。かつ、学生それぞれに応じた学習の個別化・個性化をよりよくさせる有効な手段でもある。

しかし、社会・経済発展のレベルには違いがあり、そして、教育制度、伝統文化の差異もあるため、中国では、遠隔教育は正規教育の補足となる一方、アメリカでは正規教育と成人教育の重要な手段のひとつとなる。遠隔教育のやり方が異なるがそれは遠隔教育の主旨と矛盾するのではないと考えられる。

2 遠隔教育と伝統教育をはっきりと一線を画すことは受け入れるべきではないと思われる。現実に行われる遠隔教育のやり方(アメリカのほう)と展開の流れから見れば、今後の高等教育は、単純な伝統教育と単純な遠隔教育と別に存立するのではなく、有機的に融合し、両者の長所を生かし、短所を補い合い、そして、最適化するものにするのは次の段階ではないかと考えられる。

中国のような、遠隔教育学院を独立に設置し、合格すれば学歴を与えるこの制度の現状を見ると、遠隔教育が限られている教育資源の元で、できるだけ多くの

学習者が高等教育を受けるための補足機能として展開する方向しかないと思われる。そのため、学歴・学位は国が承認したにもかかわらず、社会の人々に認証しないが生じている。

3 遠隔教育の学歴の社会の認証が低いのは、遠隔教育のやり方と関係があつて、遠隔教育の質と深くかわりがあると思われる。遠隔教育は大学外の教育、すなわち正規の学歴取得に結びつかない教育ではない。そして、遠隔教育は伝統大学の先生を中心する方式と違い、学習者を中心とする教育方式である。

学習者は消費者でもある。さらに遠隔教育は教育のひとつとして、公共事業の性格をもつため、人々と社会に対して責任を果たすべきと考えられる。そのため、教育の質に関する観念を転換しながら、その一連の基準、審査などを追究しつつ実践していく必要がある。

各国の社会・経済の発展、文化の違いがあるが、遠隔教育を健やかに発展させるため、教育の概念を転換し、教育資源を融合させ、教学の質を確保することが必要となっている。

注

1) 学歴教育：学歴を与える教育

① <http://www.ntu.edu/ac/allaccrs.asp> 2006.8

<http://uwhelp.wisconsin.edu/students/adult/distance.asp> 2006.8

2) 高卒の人がこのコースを通して大学の卒業書証・学位をもらう

3) 専門学校・短大卒業の人がこのコースを通して大学の卒業書証・学位をもらう

② Sally M. Johnstone 「アメリカ遠隔教育の現状・挑戦と戦略」中国遠隔教育 2004. 8 p. 50

③ 吉田 文 『アメリカ高等教育における e ラーニング 日本への教訓』東京電機大学出版局 2003 p. 50

参考文献

易濱「国際遠隔教育の発展」<http://www.com.cn>. 2004.12.16

Sally M. Johnstone 「アメリカ遠隔教育の現状・挑戦と戦略」中国遠隔教育 2004. 8

張偉遠「中国の特色を持つ遠隔教育学科を作り上げることを論じてみる」中国遠隔教育 2004. 12

張秀梅「遠隔教育と教育技術についての国際比較」中国遠隔教育 2004. 12

丁興富「遠隔教育の質保証についての国際比較研究とその結論」遠隔教育雑誌 2004. 4

丁興富『遠隔教育研究』首都師範大学出版社 2002. 12

吉田 文 『アメリカ高等教育における e ラーニング 日本への教訓』東京電機大学出版局 2003

<http://www.wcet.info/resources>

<http://www.mit.edu>